

# 令和5年度事業報告

## I 概要

### 1. 総括

#### 【企画会議】

企画会議は、各専門委員会委員長で構成し、三役が参加し諮問している。委員会間の情報を共有するとともに意思疎通を図り、理事会及び専門委員会の運営が円滑に行われるように取り組んできた。

センターの現状を見ると、令和5年度末の会員数は256名となり、令和4年度末の会員数238名より18名の増となり、年度目標の255名を達成することができた。昨年度より取り組んでいる年度末の会員数を増やすための理事会承認による会費免除の取り組みが功を奏したと思われる。また粗入会率は2.2%となり、目標値である2.1%を達成することができた。

契約金額については、前年度よりシルバー人材センター事業、労働者派遣事業ともに実績は増加し、目標の1億5千万円を達成することとなったが、このことは事務費率を15%に引き上げたことが大きく影響している。未就業会員解消、就業機会拡大の各項目については、あと一步のところまで達成できなかった。

毎月第4水曜日の就労相談日は、新たに移転したふれあいサロンで実施してきた。これまでと違い、サロンと隔てた場所を使って相談しやすい環境を整えたが、周知が行き届かなかったのか、相談数の増加にはつながらなかった。

毎年企画会議が主体となって実施している「仕事始め式」と「安全祈願祭」は、コロナの5類移行を受け、コロナ禍前に倣い開催した。長引くコロナの影響で参加者は横ばいとなったが、昨年実施できなかった餅つきは正月らしさを盛り上げることとなった。今後は参加を促す工夫が必要と思われる。

ワークプラザは、主に手作り加工部つくしんぼなどの独自事業の活動拠点として利用されている。会員の懇親の場として、また伊佐さくら会など活動拠点としても、練習の場としても重宝されるようになっている。

#### 【事業推進委員会】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、定時総会や懇話会を通常に近い形で実施することができた。

定時総会は事業推進委員会と役員が中心となって、令和5年5月26日に、伊佐市長、市議会議長などの来賓を含め、出席制限することなく、報告事項や議案も説明を行い、質疑応答を含め通常どおり実施した。

行政機関との懇話会は、令和5年10月5日、伊佐市長、副市長のほか各課長20名、センター役職員29名が出席して、センターの概要や事業内容、会員の活動状況を説明し、意見交換を行った。また、市議会議員との懇話会は、令和5年11月14日に伊佐市議会議員11名、議会事務局2名、センター役職員21名が出席し、意見交換を行った。両懇話会ともに、センターの現状を理解していただく良い機会となった。しかし、途中退席の問題や質疑と回答がかみ合わなかったことなどの対応が今後の課題として残った。

当委員会の担当である苦情処理については、会員の不注意や自覚欠如によるものが

散見された。

利用者アンケートについては、令和5年4月から令和6年3月までの間に、62件の回答があり、仕事の満足度については、その多くが『満足』という回答をいただいているが、割合としては多くないものの、『不満』という回答も見受けられた。発注者との連絡・連携不足がその大きな要因と思われる。

#### 【組織管理委員会】

会員は地域班及び職域班に属し、センターの基本理念に基づき自主的、自立的な活動を実践している。令和5年度は新型コロナウイルスの感染は下火になったものの、4年度に引き続き感染予防対策に取り組みながら活動を行った。

会員拡大については、例年と同じく「一会員一入会運動」を展開した。今年度の入会説明会受講者は52名で昨年度より3割ほど増加した。入会者数は38名と昨年度より7名増加し、入会説明会の改善などで一定の成果を上げることができた。年度末の会員数については昨年度より18名増加して256名となった。年度末会員数の増加対策として、理事会の承認を得て3月入会会員の入会費用を免除したことや新規受託施設の管理会員募集もあり、3月の入会者数は12名と昨年度の3倍近くになった。

尚、退会会員については、高齢化や家庭の事情によりやむなく退会せざるを得ない会員が増えていることを認識しておく必要がある。

入会後には新入会員を対象とした「新入会員研修」を実施し、センターの基本理念、心構えの徹底を図るとともに、会員が守るべき就業時のルール、手順等について説明した。また、管理群・事務群・福祉家事サービス群・派遣会員を対象に「会員研修」を行い、外部講師を招いて「接遇及びコミュニケーションの基本について」講習を行った。

役職員独自研修は9月11日(月)に実施し、希望者を含む対象者86人に対し65名が出席した。

地区別ボランティア活動については6月3日(土)に、大口地区はとどろ公園周辺、菱刈地区はまごし館周辺の2ヶ所に分かれて行い、大口地区29名、菱刈地区26名の参加があった。

また全体ボランティア活動は、9月2日(土)に本城小学校で行い、会員60名の参加があった。校庭の樹木剪定や除草などを行い、秋の運動会を控えた学校側からも大変喜ばれた。また当日の状況は南日本新聞にも掲載され、シルバー人材センターのPRに一役買った。

#### 【就業管理委員会】

普及啓発については、街頭キャンペーン、行政訪問活動、広報活動車による広報活動等を継続的に行った。広報車による街頭宣伝活動は毎月実施し、公共施設やコミュニティなどに掲示している入会説明会・就労相談日関連ポスターの貼り替えを行った。特に10月の普及啓発促進月間においては、通常巡回していないコミュニティも訪問し、ポスターの掲示をお願いした。また月間中は全会員によるチラシ配付活動を実施した。

地域住民への啓発及び理解を深めることを目的とした『伊佐シルバー祭り』については、時間設定を見直し、グラウンドゴルフ大会を早朝から実施した。また、式典、

展示販売や女性会員による手作りの昼食サービスを実施し、多くの方々が参加され盛況であった。

施設管理群の就業ローテーションも引き続き取り組んだ。

「植木剪定スクーリング」は、一般市民に対して剪定に関する知識や技術を習得してもらうことでシルバー人材センターの魅力をアピールし、同時に入会勧奨を行った。また併せて会員の技術向上、剪定班の戦力アップを図った。

事業実績については、昨年度より会員数及び契約金額ともに増加した。また、『高齢者活用・現役世代雇用サポート事業』で配置されている事業コーディネーターが定期的に就業開拓等の活動を行い、センター事業の理解及び浸透を図った。

#### 【福祉・家事サービス委員会】

福祉・家事サービス群としては、委員会を中心に一定の活動が行えた。しかし家事援助サービス班としての就業会員が少ないため、引き続き、会員の獲得が緊急の課題である。

福祉・家事援助サービスの主な受注は、高齢者家庭の家事援助である。市の包括支援センターや民生委員からの相談を機に就業に至るケースも多い。また長寿介護課の日常生活支援サービス事業や、地域振興課のふるさと納税返礼品(親孝行支援サービス)による受注もあり、ここから次の受注に繋ぐことで就業機会の拡大になるよう会員の協力が求められる。

「頭の体操教室」は、これまで受講者から大きな支持を受けており、令和5年度も引き続き、読み・書き・計算や、月1回の健康体操・輪投げ・スカットボールを行った。例年通りのレクリエーションとは別にグラウンドゴルフやボッチャを実施したりと「勉強ばかりでなく皆で楽しい事を」という受講生の要望を取り入れた。また教室では毎回アルコール消毒を行い、手指消毒、マスクの着用などの感染症予防対策を行い実施した。受講者に毎回好評だった園児・児童とのふれあい交流は健康・安全面を考慮し、令和5年度も中止とした。

#### [頭の体操教室受講者実施状況]

実施校区	受講者	修了者	開設日	延受講者数
おおくち	37人	33人	40日	1,165人
ひしかり	20人	20人	39日	628人
やまの	11人	10人	40日	353人
ほんじょう	13人	13人	39日	416人
はつき	19人	18人	40日	573人

介護予防事業については、大口地区2回、菱刈地区2回の計4回開催し、良い評価をいただくことができた。

[介護予防事業実施状況]

実施日	実施場所	実施内容	参加状況	
			一般	会員
5月23日(火)	元気こころ館	認知症サポーター養成講座	8人	18人
8月25日(金)	まごし館	健康体操	5人	22人
11月17日(金)	元気こころ館	歌、体操、輪投げ	15人	3人
1月22日(月)	まごし館	歌、体操、ボッチャ	8人	9人

子育て支援事業は、『放課後児童健全育成事業(児童クラブ)』を軸に、市や学校の協力のもと、十分な感染防止対策を講じながら充実した活動を実施することができた。

[放課後児童健全育成事業実施状況]

	開設日数	登録児童数	平均利用児童数	延利用児童数
山野児童クラブ	266日	16人	6.8人	1,816人
羽月児童クラブ	291日	28人	13.8人	4,023人

講習会については、料理講習会を2回と子育て支援講習会を2回、開催することができた。就業機会の拡大や会員のスキルアップにつながるよい結果が得られたことから、今後も継続して実施していく。

[講習会実施状況]

講習会	実施日	実施内容	参加状況	
			一般	会員
料理講習会	7月21日	夏バテ防止の料理	1名	1名
	12月15日	冬野菜を使った料理	8名	2名
子育て支援講習会	7月7日	こどもたちの笑顔を見たくて	1名	12名
	10月27日	保健師による感染症予防の講話	3名	8名

普及啓発活動については、伊佐ふるさとまつりと伊佐市春の市が開催され、委員による啓発チラシの配布を行った。事業所訪問についても計画通り実施した。福祉家事群によるボランティア活動も実施し、啓発活動及び地域貢献に努めた。

【独自事業管理委員会】

独自事業については、センターの特性を活かしながら、会員の自主的就業活動の場として安定した事業を展開してきた。

門松製作事業は、販売数量増加に伴い売上金額は前年度を上回った。また技術の研鑽や材料の確保、作業段取りの改善に取り組んだ結果、配分金の増額にもつながった。

しめ縄事業は、経験と技術の研鑽により販売数量、金額ともに大幅増となった。

シルバーふれあいショップは、大口ふれあいセンター改修工事に伴い、新たにふれあいショップとふれあいサロンを併設運営できる店舗として寺田病院近くの空き店舗を賃貸契約し、令和5年7月1日にリニューアルオープンした。移転後もお客様本位のショップを目標に親しみやすい店舗づくりを目指した結果、売り上げは回復傾向にある。

新たなふれあいサロンは、特定された人に限らず、新たな地域のお客様や会員同士の憩いの場として居心地の良い場所を提供することができた。また伊佐市介護保険事業の一環として、月一回のシルバーサロン体操(いさトレ)を導入し地域に密着した「通いの場」としてのサロン施設の活用も実施できた。

手作り加工部つくしんぼは、社会情勢に応じた販売戦略の見直しと強化を行い、お客様のニーズに合った商品の開発と安定的生産に取り組んだ。特に季節限定販売のあくまきや正月用餅の売上金額は前年度を大幅に上回った。

刃物研ぎ事業は、概ね順調な活動により例年を上回る取扱数量と売上額であった。

製炭事業は、製炭工程、炭窯の見学及び大島作業所での体験講習会を2回に分けて実施したところ、熱心に意見を交わすなど興味津々の参加者もおられ、今後の製炭事業に期待をもてる製炭講習会が実施できた。

上記以外の事業は、大きな活動は出来ていない状況である。

総括すると、独自事業での就業を通じて地域社会に貢献することを目標に、製造技術の向上や販売促進等に取り組んだ結果、全体として例年を大幅に上回る取扱数量と売上額であった。

### 【安全委員会】

事業計画に基づき、安全委員会及び安全委員会対策員会議を中心に安全就業の推進に取り組んできた。

隔年開催の安全就業大会や安全講習会を開催し安全就業に対する意識の向上に努めた。また、実技を中心とした機具取扱講習会及び救急講習会を開催し、会員より好評を得た。

安全パトロールについては、安全就業の一層の推進を図るため、実施方法について改善を行った。主な改善点は、普段の就業状況を確認するため抜き打ちでのパトロールの実施及び休憩時間とパトロールが重複することのないよう開始時間の変更を行った。

過去5年度間の事故発生件数

事故 年度	発生件数		
	傷害	物損	合計
元年度	5件	10件	15件
2年度	8件	5件	13件
3年度	3件	4件	7件
4年度	7件	8件	15件
5年度	3件	9件	12件

## 2. 理事会 令和5年度の理事会は、7回開催した。

理事会は、センター業務の運営上必要な事項について、総会に次ぐ議決機関であると同時に、最高の執行機関であるので、センターの発展のため、理事会を中心とした専門委員会活動の充実とセンター運営の統括を図るため、三役会議で各情報を収集し、各委員会へ反映させた。更に、センター事業の変革に対応するため、三役会議・企画

会議での十分な協議により、理事会運営の強化も図った。

### 3. 組織活動

#### (1) 地域班

地域班において、センターだより「シルバー伊佐」、就業や安全、講習会の案内などの充実した情報が毎月定期的に会員へ届けられるシステムは、世話人を中心とした会員の協力体制が充実してきた現れである。このような会員の活動に報いるために、令和4年度に班長手当を見直し、わずかではあるが引き上げた。

#### (2) 職域班

センターが請けた就業依頼を、班長が会員に自主的に伝達、調整する班運営も確立しており、世話人・班長の日頃の努力によるものが大きい。

班長の高年齢化による安全面の問題解決のために職域班長の定年制を導入しているが、令和5年度は後継者育成のための仕組みづくりに力を入れた。

### 4. 安全就業対策

会員の安全就業は、みんなの願いであり、大切な事項であるため、安全委員会及び対策員会議において、安全就業実施計画書を基に会員の無事故対策が講じられた。

#### (1) 安全就業マニュアル・安全就業実施計画書に基づく安全就業の徹底

#### (2) 安全就業の日朝礼式及び安全就業現場パトロールの実施

#### (3) 交通安全キャンペーンによる交通安全及びセンターの普及啓発

#### (4) 交通安全に関する講習会の実施

[車両安全運転講習会]

#### (5) 安全就業に関する講習会の実施

[刈払機・チェンソー及びトリマ取扱講習会、救急講習会]

#### (6) 安全就業大会、安全講習会の実施

### 5. 普及啓発関係

就業管理委員会を中心に、役員・会員により次のような活動を行った。

#### (1) 行政訪問活動並びに集客場へのパンフレット等の配置

#### (2) 地域施設等への広報（入会説明会・講習会日程等）

#### (3) 広報車による啓発活動

### 6. 福祉・家事援助及び育児支援サービス事業

福祉・家事サービス委員会を中心に、組織的活動としては感染予防対策に努めながら一定の活動が行えた。

しかし、家事援助サービスについては、就業会員が少ないことから、会員獲得が緊急の課題であるため、今後も啓発活動に力を入れていく。

育児支援事業については、市委託事業を中心に様々な事業に取り組んでいる。

#### (1) シルバーハウジング(高齢者住宅等安心確保事業)の実施

#### (2) 頭の体操教室(認知症予防事業)の実施

#### (3) 児童クラブ(放課後児童健全育成事業)の実施

- (4) ほほえみ会定例活動の充実
- (5) 講習会の実施[料理講習会, 子育て支援講座]

## 7. 独自事業の展開

独自事業は、会員自らの創意工夫により、趣意を同じくする会員が実施する事業で、就業開拓の大きな位置づけとなるため、独自事業管理委員会を中心に現事業の拡充並びに新規独自事業の研究開拓に取り組んだ。

後継者育成としては、定期的な講習会を開催し、独自事業会員の拡充を図った。

また、独自事業会員の資質向上を図るための研修等も実施した。

### (1) 独自事業実施状況

- |                |               |
|----------------|---------------|
| ① 門松製作事業       | ② しめ縄製作事業     |
| ③ 花卉・園芸栽培事業    | ④ 製炭事業(木炭・竹炭) |
| ⑤ シルバーふれあいショップ | ⑥ 刃物研ぎ事業      |
| ⑦ 手作り加工部つくしんぼ  | ⑧ ふれあいサロン     |

### (2) 講習会等実施状況

- |           |             |
|-----------|-------------|
| ① わら細工講習会 | ② 刃物研ぎ講習会   |
| ③ 製炭講習会   | ④ 氏神用しめ縄講習会 |